

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：32641
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2017
 課題番号：26381127
 研究課題名(和文) 公共政策大学院の学修成果を指標とする質保証システムの各国間比較に関する実証研究

 研究課題名(英文) The Comparison of Quality Assurance System about Professional School of Public Administration through Indicator of the Learning Outcome in Each Country

 研究代表者
 早田 幸政 (Yukimasa, HAYATA)

 中央大学・理工学部・教授

 研究者番号：30360738
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高等教育の質保証の指標である「ラーニング・アウトカム」の調査を通じ、我が国専門職大学院の質保証の有効性を高めることを目指していた。その目的に即して、第1に、中国・韓国の公共政策大学院の現地調査を行った。第2に、大学院教育のアウトカムが「資格枠組」に準拠しているイギリス、オーストラリアの公共政策大学院の現地調査を行った。第3に、アメリカの公共政策大学院のアクレディテーションを掌るNASPAAの評価基準の調査を書面を通じて行った。第4に、「ラーニング・アウトカム」の意義をさらに詳しく把握するために、ASEAN地域で運用が開始された「高等教育資格枠組」の調査も行った。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to enhance the effectiveness of quality assurance about Japanese professional school through learning outcome, which is the indicator of evaluation about higher education. To achieve the purpose, this study project firstly implemented an on-site visit to search the professional school of public service in China and Korea. Secondly this study project executed an on-site visit to search the professional school of public service in England and Australia, which higher education quality assurance is done according to qualifications Framework. Thirdly this study project inquired the NASPAA Accreditation Standard to ensure excellence in public service graduate program in writing. In addition, to understand of the concept about learning outcome, this study project fourthly investigated the Higher Education Qualifications Framework which started to function in ASEAN region.

研究分野：教育社会学

キーワード：公共政策大学院 質保証 ラーニング・アウトカム 資格枠組み アクレディテーション

1. 研究開始当初の背景

今日の我が国高等教育政策では、大学の内部質保証の有効性を高める一環として、教育目標に対応させたラーニング・アウトカムを設定し、その充足状況の測定・評価を通じて教育活動の改善・向上を継続的に図ることが必須課題とされてきた。そうした高等教育政策の潮流に沿う形で、公共政策大学院の認証評価を実施している大学基準協会は、認証評価基準を改定し、「学生の学修の密度」を豊富にし「教育効果」を高める質保証に転換する方向に舵を切った。

海外に目を転ずると、アメリカの公共政策大学院アクレディテーションを掌る NASPAA は、アウトカムベースの評価を行っている。オランダに本拠を置く EAPAA は、「欧州高等教育圏」の始動を視野に入れ、欧州地域の公共政策大学院の質保証に着手している。さらにベルギーに本拠を置く IASIA は、国連と連携し、NASPAA や EAPAA との協力体制の下、グローバルな規模での公共政策大学院の質保証の枠組みの構築を図っている。

こうした公共政策大学院の質保証の実施に大きな進展が見られる中、我が国と我が国を取り巻く国々、とりわけ公共政策大学院の発展が著しい中国、韓国の同分野を対象とする質保証が、大学内部でどのように行われ、外部質保証機関がどう関与しているのか、を究明することは「キャンパス・アジア」構想が実現可能な将来展望として部分的な進展が見られる中、相当程度の意義が認められた。

また職業資格に関わる「資格枠組み」と教育プログラムの質保証が制度的に関連づけられているイギリスやオーストラリアにおける、同分野の質保証システムの観察と分析を行うことは、当該分野におけるアウトカム評価の実相を具体的にあぶり出していく上で意義深く、我が国公共政策分野の教育プログラムの質保証の充実に向け大きな示唆を得ることが期待されていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、次の諸点であった。

第一が、大学の質保証の枠組みそれ自体の研究はなされてきたものの、質保証におけるアウトカム指標の位置づけについての考察がほとんどなされることになかった中国、韓国におけるアウトカム評価の現状と、その実施に伴い直面する課題を明らかにすることであった。そこで、両国の大学評価機関を調査対象とするとともに、個別の公共政策大学院の調査を行うことを通じて、同分野の内部質保証におけるアウトカム評価の浸透度と、公共政策分野の質保証を手がかりに、これまでほとんど研究のなされてこなかった両国の専門分野別質保証の実相を究明しようとするものであった。第二が、イギリス、オーストラリアとも、昨今の大学質保証政策の転換に伴って、専門職の「資格枠組み」の内容や 運用法に変更が来たことから、

これらの国で、教育プログラム別や学位レベル別に設定されたラーニング・アウトカムが、新たな「資格枠組み」の仕掛けの中でどう系統的に運用されているのかを明らかにすることであった。そして、このことを踏まえた上で、公共政策大学院の学位がそうした資格枠組みと連結することで、同分野に如何に有為な人材を提供できているのか、また、解決すべきどのような課題があるのかを究明することにあつた。第三に、上記第一、第二の調査研究の結果を基に、我が国公共政策分野の質保証ひいては我が国高等教育分野において大学機関別認証評価の相当部分を手がけている大学基準協会に対し、同分野に固有のアウトカム指標の提示とともに、アウトカム指標を用いた各教育プログラムの質保証の在り方についてささやかな提言を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、上に示した目的の達成に向け、書面調査と現地調査の組み合わせで実施した。

平成 26 年度は、中国、韓国の専門分野別質保証の動向を踏まえ、両国の公共政策大学院の質保証システムとその運用の実態把握を行った。まず、中国と韓国の高等教育質保証システムの概要の把握を、書面調査を通じて行った。

ところで、中国では、すでに実施に移されている大学院評価に加え、専門分野別評価や「国家資格フレームワーク」の導入も検討されている。韓国では、大学教育協議会・大学評価院が大学機関別評価を担っているほか、専門分野別評価も、政府・教育科学技術部の認証を得て部分的に実施段階にある。

本研究では、とりわけ、両国の公共政策大学院の質保証の取組が、如何なる手法によりどの程度まで進行しているか、という点の調査を、現段階でのアウトカム指標の開発とそれに基づくアウトカム評価の状況把握を中心に据えて、現地調査方式で行うこととした。

そしてその目的を達成すべく、中国については、上海市教育評価院、上海交通大学国際与公共 業務学院（公共管理碩士(MPA)コース）、同済大学与公共業務学院（公共管理碩士(MPA)コース）を対象に訪問調査を実施した。また、韓国については、大学教育協議会・大学評価院、延世大学行政大学院、高麗大学行政大学院を対象に訪問調査を実施した。

、平成 27 年には、オーストラリアの高等教育質保証システムの概要把握と質保証政策に関する最近の動向を書面調査を通じて行った上で、現地調査を行った。

このことを詳しく説明すると、まず、「オーストラリア大学質保証機構(AUQA)」の質保証の業務を継承した「オーストラリア高等教育質・基準機構(TEQSA)」の調査を書面調

査の方法で行った。TEQSA は、同国の大学の事前審査とともに、アウトカムベースに基づく事後的な質保証と「オーストラリア資格枠組み(AQF)」に対応したプログラム審査を実施している。そこで、その調査に当っては、特に、学位取得に求められるラーニング・アウトカムと AQF の関係性に着目した。

そして、そこで得た知見を踏まえ、公共政策大学院のアウトカム評価の実体を現地調査を通じて確認した。具体的には、メルボルン大学行政大学院、モナッシュ大学公共政策・経営研究科をその対象にこれを行った。

平成 28 年度には、イギリスの公共政策大学院の調査に加え、同国の高等教育質保証政策の転換に関わる調査も行った。

これをより詳細に述べれば、イギリスの職能資格の基本となっている「全国資格枠組み」と修士レベルの学位授与の要件とされるコンピテンシーの関連性を、公共政策大学院の授与する学位に照準を当て調査した。

そうした視点に立脚して本調査では、公共政策大学院の教育内容・方法とそれらの内部質保証のあり方をラーニング・アウトカムや「全国資格枠組み」と関連づけながら、一連のアウトカム評価の実施状況を把握することを目的に現地調査を行った。具体的には、バーミンガム大学行政学研究科(MPA コース)とロンドン大学政策評価修士プログラム(MSc コース)を訪問し調査を行った。併せて、イギリス(イングランド)における高等教育質保証政策の転換に伴う質保証システムの改変状況を的確に把握することを目的に、同国の代表的な高等教育質保証機関である「高等教育質保証機構(QAA)」を訪問し、担当者を通じて数多くの知見を得た。

ほかに、アメリカにおける公共政策大学院の質保証システムの現状把握については、書面調査を通じてこれを行った。具体的には、公共政策大学院のアクレディテーションを担う「全米公共政策大学・大学院協会(NASPA)」が公にしている「アクレディテーション基準」や「自己評価の手引き」などの公的文書の翻訳を通してその実相の把握を行った。

なお、補充調査として、ラーニング・アウトカムと「資格枠組み」の関係性を正確に理解するため、両者の一体的運用を通して高等教育質保証システムの構築・運用を目指している ASEAN 諸国の質保証の実態把握を、主に書面調査を通して行った。

4. 研究成果

本研究は、大学教育の質保証をアウトカム評価を軸に行うことの有為性を探究する一環として、公共政策大学院の質保証の指標であるアウトカム指標の開発・運用の状況の調査を通じ、我が国公共政策大学院ひいては我が国高等教育全体の質保証の機能的有効性を高める方途の究明を行うことを目的としていた。

そうした本研究の目的に即して次に掲げるような成果を挙げることが出来た。

第 1 に、大学の質保証それ自体の研究はなされてきたものの、質保証の位置づけについての考察がほとんどなされることのなかった中国、韓国におけるアウトカム評価の現状と、その実施に伴い直面する課題を明らかにすることが出来た。

第 2 に、中国、韓国の大学評価機関を対象とするとともに、個別の公共政策大学院の調査を行うことを通じて、同分野の内部質保証におけるアウトカム評価の浸透度と、公共政策分野の質保証を手掛かりに、これまでほとんど研究のなされてこなかった両国の専門分野別質保証の実相を明らかにすることが出来た。

第 3 に、イギリス、オーストラリアともに、昨今の高等教育質保証政策の転換に伴って、専門職の「資格枠組み」の内容や運用方法に変更が来されたことから、これらの国で、教育プログラム別や学位レベル別に設定されたラーニング・アウトカムが、新たな「資格枠組み」の仕掛けの中でどう効果的に運用されているのかを明らかにすることが出来た。付随して、イギリスの高等教育質保証政策の大きな転換に伴い、同国の高等教育の質保証において中心的な役割を担っている「高等教育質保証機構(QAA)」の質保証システムの変容に係る最新動向に触れそれを具体的に明らかにすることも出来た。

第 4 に、イギリスやオーストラリアの公共政策大学院の学位が、「資格枠組み」と連結することで、同分野に如何に有為な人材が提供できているか、解決すべきどのような課題があるのかを究明することが出来た。

第 5 に、アメリカの公共政策大学院の質保証を専門分野別アクレディテーションの領域で担っている「全米公共政策大学・大学院協会(NASPA)」が公にしたアクレディテーション基準をはじめとする主要な最新の公的文書を過不足なく翻訳したことで、アメリカの専門分野別評価におけるコンピテンシーベースのアウトカム評価の全体像を正確に把握することが出来た。

第 6 に、公共政策分野の質保証がグローバルに展開され始めている中、同分野の教育質保証の営みを、アウトカム評価の視点から解明すると同時に、公共政策分野の高度専門人材に求められる「知識・コンピテンシー」の一覧を明らかにすることが出来た。

第 7 に、公共政策大学院の質保証の在り方を探求していく中で、アウトカム指標の開発・運用の手法を、各大学の内部質保証、評価機関による外部質保証の両面から解明することが出来た。

第 8 に、本科研テーマの期間延長の間に取り組んだ ASEAN 諸国の高等教育質保証システムと「資格枠組み」の関係性、「資格枠組み」の共有化を前提とした ASEAN 地域横断的な高等教育質保証連携の現段階を的確に把握する

ことが出来た。

第9に、以上のような調査研究の成果を踏まえ、公共政策大学院その他の学位プログラムを包含する我が国高等教育において、「ラーニング・アウトカムのアセスメント」を軸とする「内部質保証」の営為の定着化に向けて認証評価機関が行うべき将来的課題、我が国高等教育分野においても、高等教育先進国同様、「資格枠組み」を構築・運用する必要性など、人材育成を担う我が国高等教育の有効性を一層高めるためささやかな提言を行うことが出来た。

第10に、上記「第9」と関連して、本研究の実施組織の相当部分に、公共政策大学院の質保証の実務家やその実務経験を有する研究者が配置されていたことの帰結として、本研究の成果として、大学基準協会によって営まれている公共政策専門職学位課程を対象とする認証評価の精度を高める上で実施可能な効果的な提言を行うことが出来た。

第11に、本研究の成果を、本研究に参加した研究者全体が自身の調査研究に係る分担部分を文書として取りまとめ、平成26年度～28年度日本学術振興会補助金(基盤研究C)研究成果報告書『公共政策大学院の学修成果を指標とする質保証システムの各国間比較に関する実証研究(課題番号:26381127)』として結実させることが出来た。付随して、本科研テーマの期間延長期の研究成果についても、これを「ASEAN地域における高等教育質保証連携と『資格枠組み(QF)』の構築・運用の現段階 今、日本の高等教育質保証に何が求められているか」の論稿に仕上げた。同論稿は、大学基準協会『大学評価研究』第17号に掲載されることが既に決定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

早田幸政「ASEAN地域における高等教育質保証連携と『資格枠組み(QF)』の構築・運用の現段階 今、日本の高等教育質保証に何が求められているか」大学基準協会『大学評価研究』、査読無、17巻(掲載予定) 2018

前田早苗・姜達雄・丸山剛司「韓国調査報告」早田幸政(代表研究者)『公共政策大学院の学修成果を指標とする質保証システムの各国間比較に関する実証研究(課題番号:26381127)(基盤研究C研究成果報告書)』、査読無、2017、12-22

早田幸政・杉岡秀紀「中国調査報告」上記『(課題番号:26381127)(基盤研究C研究成果報告書)』、査読無、2017、26-33

早田幸政・前田早苗・堀井祐介「オーストラリア調査報告」上記『(課題番号:26381127)(基盤研究C研究成果報告書)』、

査読無、2017、34-46

早田幸政・堀井祐介・工藤潤「イギリス調査報告」上記『(課題番号:26381127)(基盤研究C研究成果報告書)』、査読無、2017、48-61

早田幸政「アメリカ(NASPAA)書面調査報告」上記『(課題番号:26381127)(基盤研究C研究成果報告書)』、査読無、2017、62、89-116

早田幸政「大学基準協会の活動の航跡を振り返って 協会成立から認証評価の始動までの時期を対象に政策的視点を踏まえた検証」大学基準協会『大学評価研究』、査読無、16巻、2017、7-19

早田幸政「第3期認証評価の展望」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』、査読無、NO,595、2017、4-9

工藤潤「大学基準協会による第3期認証評価」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』、査読無、NO,595、2017 10-15

前田早苗「認証評価の現状と課題」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』、査読、NO,595、2017 36-40

早田幸政「ASEANにおけるラーニング・アウトカムの測定・評価を軸とする高等教育質保証体制構築に向けたチャレンジに関する研究」中央大学教育学研究会『教育学論集』、査読無し、59集、2017、67-96

早田幸政・工藤潤・堀井祐介「イギリスの教育質保証システムの現状と変容 イングランドにおけるQAAの制度改革を中心に」『季刊教育法』、査読有、2016、110-117

早田幸政「認証評価の現状・課題と内部質保証」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』、査読無、NO,583、2017、9-14

工藤潤「大学は内部質保証をどう捉えているのか」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』、査読無、NO,583、2017、54-59

島本英樹・早田幸政・堀井祐介・林透・望月太郎・原和世「ASEAN地域連携による高等教育の質保証とタイ王国のアクレディテーション・システム」大阪大学全学教育推進機構『大阪大学高等教育研究』、査読無、No.4、2016、25-34

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 2 件)

早田幸政編著、エイデル研究所、『大学の質保証とは何か』、2015、227

早田幸政・工藤潤編著『内部質保証システムと認証評価の新段階』、2017、174

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

早田幸政(HAYATA, Yukimasa)
中央大学・理工学部・教授
研究者番号：30360738

(2) 研究分担者

杉岡秀紀(SUGIOKA, Hidenori)
福知山公立大学・地域経営学部・准教授
研究者番号：10631442

姜 達雄(KAN, Tatu)
金沢大学・国際基幹教育院・准教授
研究者番号：20397920

堀井祐介(HORII, Yusuke)
金沢大学・国際基幹教育院・准教授
研究者番号：30304041

前田早苗(MAEDA, Sanae)
千葉大学国際教養学部・教授
研究者番号：40360739

(3) 連携研究者

工藤潤(KUDO, Jun)
大学基準協会・評価・研究部長
研究者番号：70360740

島本英樹(SHIMAMOTO, Hideki)
大阪大学・全学教育推進機構・准教授
研究者番号：50299575

(4) 研究協力者

()